

# SiteC



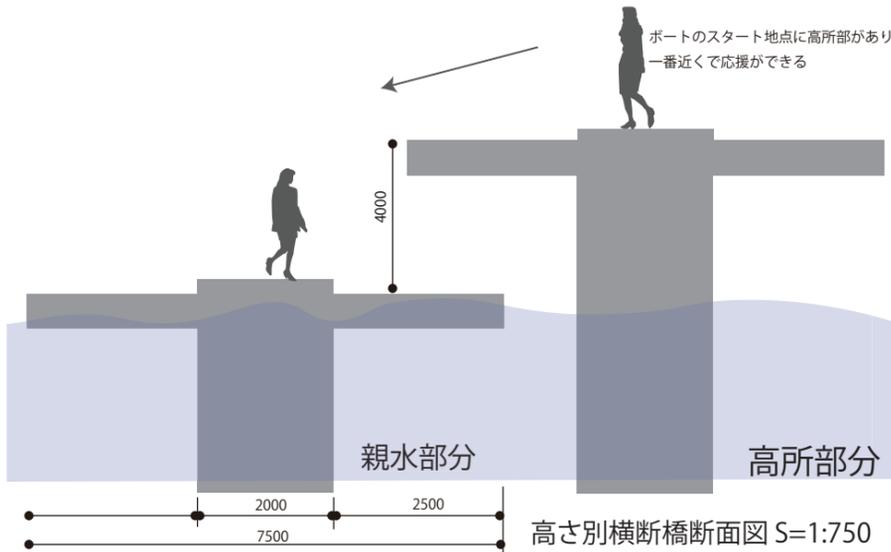
SiteCは、佐鳴湖の東西を結ぶ横断橋である。どちらも背後に水質汚染後に開発された住宅街があり、複雑な操作ではなく佐鳴湖へのシンプルなアプローチで水面まで誘導する。橋からはボートを漕ぐ学生を応援でき、水面での接点を創出する。また、東西方向の人の流れを生み佐鳴湖が地域の中心に再転換される。



干潮時の親水部分

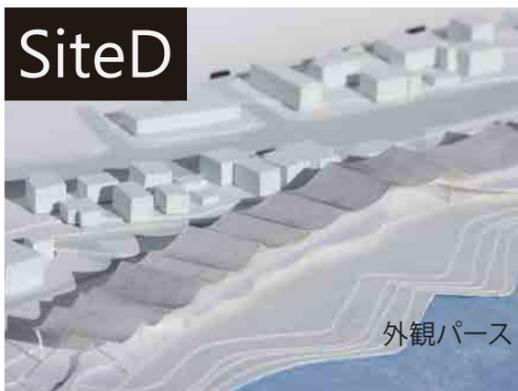


満潮時の親水部分

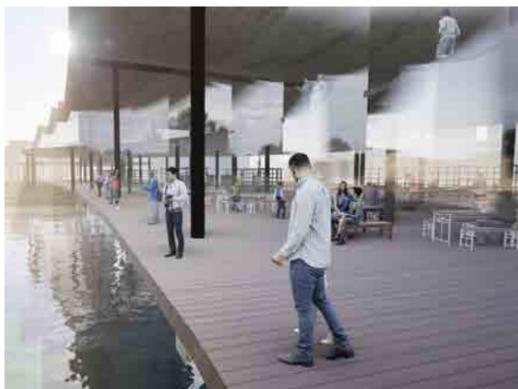


橋には、ボートを応援する高所部分と水面ぎりぎりに設けた親水部分の複数の高さを設けた。特に低い親水部分は、太平洋とつながっているため40cmほどあるという干満差によって橋の一部が沈むようになっている。これには、佐鳴湖の水質が悪化した遠因としてこの干満が挙げられていることを可視化して、そうした事実を知ってほしいという願いがこめられている。

# SiteD



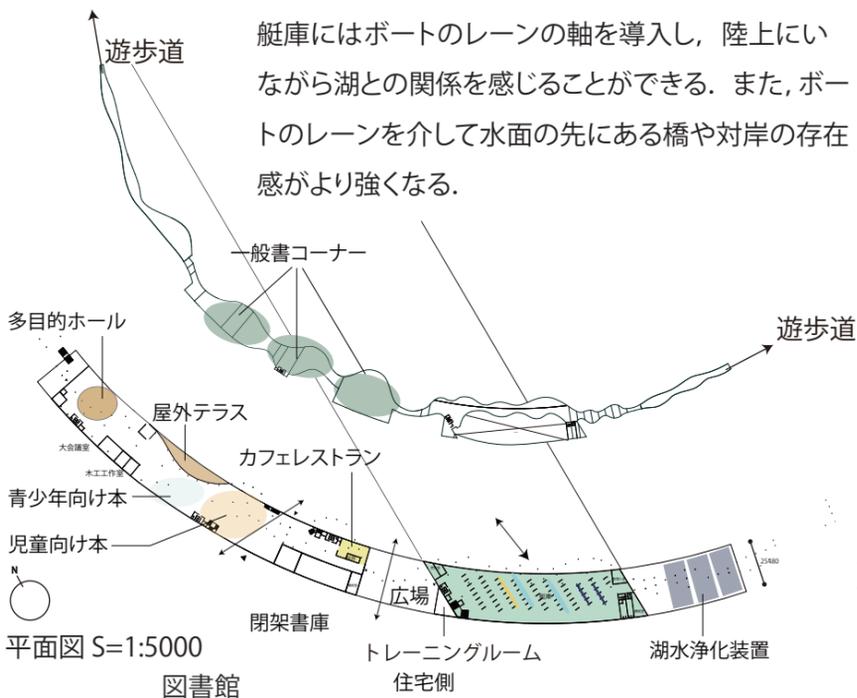
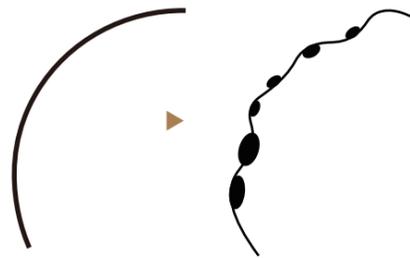
外観パース



艇庫

SiteDでは、佐鳴湖の南端に位置する場所で、近隣の高校生や大学生が練習するボートをしまう倉庫である艇庫と日常的に人が訪れる図書館を設計した。この敷地は、佐鳴湖から住宅街に近くアクセス性が高く、個人の好きな居場所を作りやすい図書館を配置するとともに、様々な角度からボート部員の大会や練習といった活動を見ることができ、これまで知ることのなかった佐鳴湖での活動やボート競技に対する興味や愛着が深まる。

2階平面は、曲線をさらに機能や景色に対応させて、内部空間と外部空間が連続的に表れる遊歩道が突き抜けている。



# 縫い合わせ

～ボート競技を起点につくる

## 1 対象地

この湖は、縄文時代には海岸線であった場所である。江戸時代には浜名湖を通じて太平洋と

## 02 背景

以前は水遊びや船遊びをするほど佐鳴湖は市民の居場所となっていたが、近年の宅地化や工業化によって佐鳴湖の水質が悪化し、2000年代には日本で一番汚い湖となった。現在ボート競技をはじめ佐鳴湖周辺での活動は少ないが、汚いといったネガティブなイメージによって、市民に避けられた場所になっているのではないかと感じた。

## 03 提案

湖の水質悪化により市民から敬遠されてしまった定義し、水際での交流を促す建築を提案する。意識した大きなスケールでスタディを行い、地



かつては農村だった住宅街

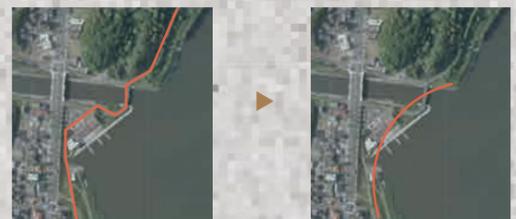
新興住宅街

SiteC

SiteD

## 04 設計手法

① 遊歩道を有機的な曲線でつなぐ



佐鳴湖には整備された遊歩道があるが、部分的に佐鳴湖から離れる形で迂回したコースとなっている。そうしたコースをまず湖に沿ってつなぎなおし、遊歩道に人を誘い込む。

# 合わせる

につくる市民の憩いの場所～

## 静岡県浜松市佐鳴湖

った場所で水域と護岸の関係性の歴史が深い場所  
太平洋と接続したため湖全体が汽水域である。

鳴湖は市民  
地化や工業  
000年代  
ボート競  
なくない  
ジによっ  
るのでは



れてしまった湖で、地域と湖を結ぶ遊歩道を再  
提案する。また、周辺の住宅街の市民の活動を  
を行い、地域全体を巻き込んだ提案とする。



② 遊歩道を垂直方向に持ち上げ、  
人の活動を挿入する

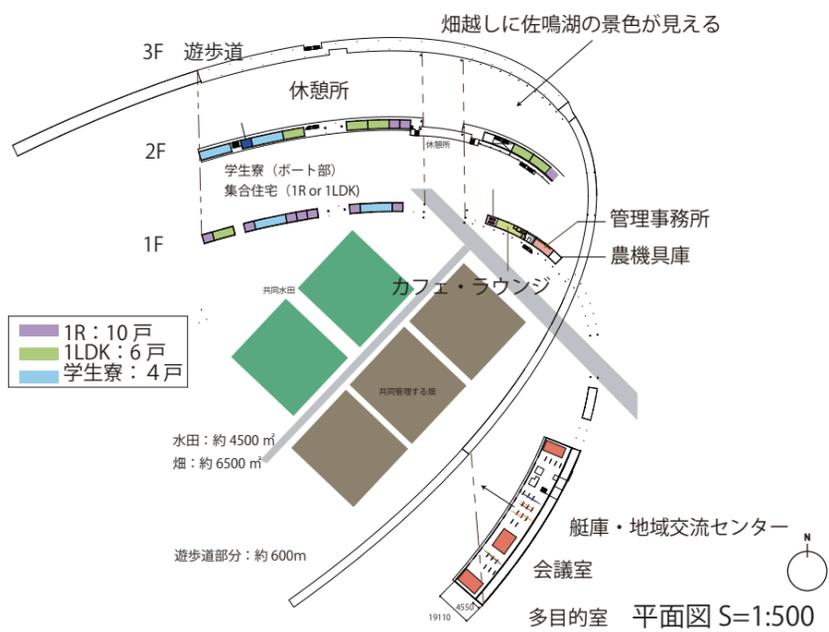
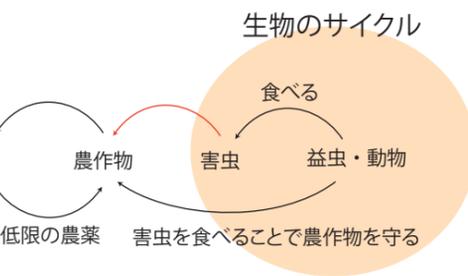


曲線を描いてつなぎなおした遊歩道を持  
ち上げて作られた1F空間にボート競  
技の艇庫やホテルなど佐鳴湖という環  
境を生かした人の活動を挿入する。

SiteAの敷地は、戦後まで農業を営む家が多かった場所である。佐鳴湖にそそぐ豊富な水資源を利用した稲作が中心であったが、自然や生き物との共存の生活がつい数十年前まで行われていた。

そこで、SiteAでは、ボート部学生のための寮を含む集合住宅と、公民館のような機能を加えたボートの保管庫である艇庫として、大きな畑を一人で管理できる程度に分割して共有する共同管理の畑とその管理施設の複合施設である。

農村の広がっていたSiteAは、佐鳴湖に隣接していることから農作物を生物のサイクルにゆだねることで最低限の農薬で栽培できる。また、それを目で見えて最低限の農薬 害虫を食することで農作物を守る 感じることができる



共同の畑



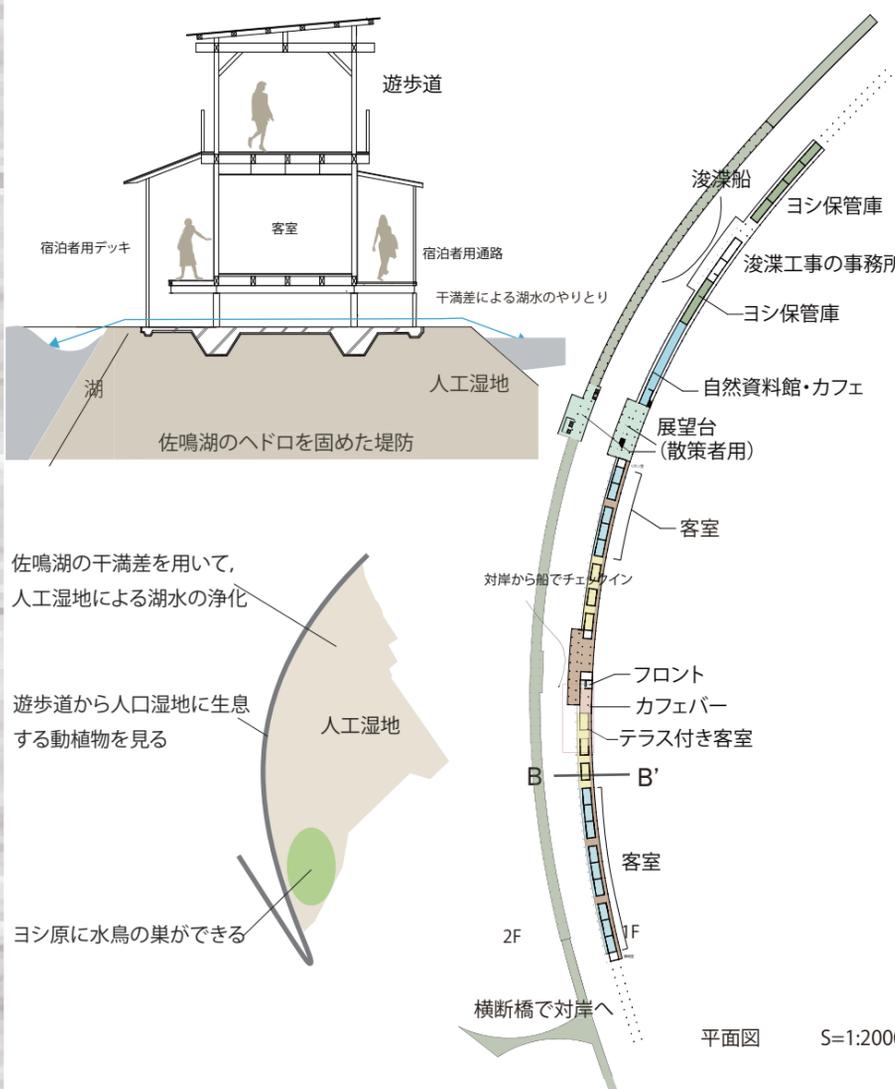
遊歩道



艇庫

艇庫部分には、会議室や公衆トイレなど市民に開かれた場所を設けて、日常生活の中で佐鳴湖へのアクセスとなるボートへの距離を近づけた。

このSiteBでは、佐鳴湖で長年悩まされてきた汚染物質であるヘドロを使って建物の土台を築き、その上に遊歩道とホテル機能、浚渫（ヘドロや堆積した土を掘りかえす）の事務所、それに天然の浄化装置と呼ばれるヨシの一時的な備蓄倉庫を設置している。



佐鳴湖の干満差を用いて、人工湿地による湖水の浄化

遊歩道から人工湿地に生息する動植物を見る

ヨシ原に水鳥の巣ができる



ホテルへのアプローチ



遊歩道



客室からの景色

平面図 S=1:2000